

平成27年度サバティカル研究者（ A ）研究成果報告書

平成28年4月24日

福岡教育大学長 殿

所属講座・センター 国際共生教育講座
職 名 教授
氏 名 タッド・ジェイ・レオナルド



研究実施場所 アメリカ、インディアナ州マンシー市 ボール州立大学

受入教員の職・氏名 ボール州立大学、教授 Ronald V. Morris, PhD

研究期間

平成27年4月1日 ～ 平成28年3月25日

研究題目

アメリカにおける降霊術者共同体の教育システムの歴史に関する研究

研究成果概要（別紙のとおり）

研究成果概要

Todd Jay Leonard, 福岡教育大学 (教育学部) 国際共生講座教授

サバティカル期間：2015年4月1日～2016年3月25日

アメリカインディアナ州マンシー市 ボール州立大学

1. 研究の目的

サバティカル期間中の私の研究目的は以下の3つであった。

第1に、文書館、博物館、降霊術者教会、降霊術者共同体を訪問し、できるだけ多くの人々に会ってインタビューをして、降霊術者共同体、歴史、霊媒に関する一次資料とデータをできるだけたくさん収集すること。

第2に、降霊術者共同体の最盛期は毎年6月から8・9月で、日本の学校はこの期間は学期中であるため、アメリカ滞在中はこの期間にできるだけ多くの降霊術者共同体を訪問すること。

第3に、アメリカと世界の降霊術の霊媒と聖職者に対して包括的な調査を作成・配布し、宗教の現状を確かめ、この宗教を形成する彼らに関して特定の学問的背景データ（研究会や証明書）、個人的背景データ、降霊術的・宗教的関連の背景データを調査すること。

2. 研究の内容

私の研究内容は、歴史的な文書館から一次資料を収集すること、降霊術に関して現在入手可能な二次資料を収集・調査すること、多くの降霊術者に会ってインタビューをすること、こうした資料を収集しまとめて、宗教がどのように奮闘時の運動から一人前の宗教に発展していったかをよりよく理解することであった。

3. 研究の方法・進め方

研究の方法と進め方に関しては、熟慮の後、本研究を確実に進める方法として、データ収集の質と量の両面を使用し、より広範で包括的な資料を収集することとした。文献研究のタイプからなる歴史に根差した研究には質的方法を活用した。

フィールドで収集された1次資料と一緒に、グラウンディド理論研究を活用した。このテーマに関する刊行資料または文献としてどこでも入手できなかったためである。この方法は、元来、歴史的な研究であるが、霊媒と聖職者の仕事上の行動と人間関係の実用的な観察を可能にしてくれたため、本研究の社会科学的側面で役立った。

更に、研究調査を客観的体系的にするために、調査では内容分析方法も活用した。以下の通り、データ収集の違いにより、グラウンディド理論と内容分析方法に加えて、多くのケーススタディ、民族誌学、現象学研究を活用した。

● ケーススタディ：降霊術者共同体や教会での霊媒の仕事を観察し、依頼人に朗読し降霊会を持つ彼らの家庭でインタビューをすること。

● 民族誌学：降霊術者の礼拝、霊伝文会、降霊会、治療団体を訪問し、降霊術者主催のセミナー、博物館、図書館に出席して、霊媒能力における彼らの仕事がどのように教会や共同体の文化に反映されたかの理解を深めること。

● 現象学研究：降霊術の霊媒と聖職者の代表的人物を抽出し、彼らの生活、仕事、降霊術者に対する彼らの態度をより深く研究すること。

● グラウンディド理論研究：降霊術の霊媒に直接会ったり電話でインタビューしたりして、彼らに快適な自然な状態での生活や仕事をより明確に理解すること。

● 内容分析：降霊術の霊媒一般の特徴の観点で記述的統計分析をすること。

社会科学的側面の研究では、量的方法を使用した。より厳密には、アンケートで得られた調査データや、電話や面談によるインタビューを含んだ記述的研究方法を活用した。研究では約130人の被験者を集めることができたが、この数字は降霊術者がグループとして科学的に研究されることに対し、恥ずかしがったり消極的になったりすることを考えると、驚くべき数字である。

記述的研究方法と共に、サバティカル期間中に行う研究分野に直接関連のある、降霊会、治療団体、霊伝文会、シンポジウム、ワークショップ、セミナーに参加して、観察研究方法も活用した。

4. 研究体制

サバティカル期間中、研究協力者はなく、以下はすべて一人で行った。調査とアンケートの作成と配布。文書館、博物館、図書館を訪れ、1次・2次資料の収集。アメリカ中の降霊術者共同体と教会の訪問。霊媒と聖職者のインタビュー。現在は、サバティカル期間中に収集できた研究データを照合し、解釈している。

5. 平成27年度実施による研究成果

サバティカル期間の最初の数か月は、研究資料を集め、調査法を作成し、自分で入手可能な範囲（個人的接触、歴史的な文書館、博物館、デジタル文書館、図書館、被験者へのインタビュー）

から資料を収集した。

6月から10月に多くの時間を費やして、アメリカとカナダ（カナダは短期）で臨地研究を実施した。多くの降霊術者共同体や数々の教会を訪れ、降霊術の霊媒と聖職者に面談した。降霊術者共同体は大部分特定の季節に限っていたため、こうした場所に時間を取って個人で訪れる必要があった。こうした降霊術者共同体は、ニューヨーク、フロリダ、オハイオ、インディアナ、カリフォルニア、ウィスコンシン、アイオワ、イリノイ、バージニアにあった。同時に、時間と資金を効率的に使うために、こうした訪問を、降霊術の霊媒と聖職者に会い、降霊術者教会を訪問し参加する機会に活用した。こうしたことは、研究のための被験者を集めるのに重要であった。

10月から3月にかけて、更に多くの資料を収集し、被験者となり得る人に会い、教会を訪れ、できるだけ多くの降霊術者の集会に出席することを継続し、時間を最大限活用した。2016年3月には、テキサス州ダラスで宗教研究南西部学会（SWCRS）国際大会に参加し、科学的宗教研究学会（ASSR）でサバティカル期間中の研究の予備的発見を発表し、‘Spiritualism Revisited: A Research Study on the Status of Spiritualist Camps throughout the United States’（降霊術再考：アメリカにおける降霊術者共同体の地位に関する研究）と題する拙論は2016年ASSR論文集で採択され、出版された。

6. 今後の予想される成果（学問的効果、社会的効果及び改善点・改善効果）

本研究は独特で稀な研究である。宗教の歴史的側面を深く掘り下げ、宗教を作り上げている実際の人々である霊媒と聖職者に対する現代研究に結び付けることによる、降霊術者の運動と現代宗教を包含したこうした研究は、私の知る限り、誰も試みたことがない。新しく革新的な研究をこの分野の現存する研究に提供できると思っている。

7. 研究の今後の展望

本研究の開始当時に私が持っていた多くの質問に答えることができたが、更に多くの質問が湧いてきて、世界中に広まったアメリカ発祥の運動を包含する、宗教と霊媒と聖職者に関してより深く研究したいと思っている。降霊術は3つのアメリカ発祥の宗教の一つであり、他の二つはモルモン教とクリスチャン・サイエンスである。この3者の内、降霊術は他の2つの宗教ほどはうまく行っていないが、設立後168年も続き、未だに成長し、多くの支持者をひきつけていることから、今後私の仮説のいくつかを更に発展させ、宗教研究を続けたいと望んでいる。

8. 主な学会発表及び論文等（予定を含む）

現在、サバティカル期間中にアメリカで収集した研究データのより多い部分を解釈し照合しており、今年、福岡教育大学紀要に論文を1本投稿し、併せて、国際的に認定されたアメリカを中

心とする論文審査のある学術誌に少なくとも2本の論文を投稿する計画である。そして、現在、解釈し理解しようとしている研究成果を公表するために、テキサス州ダラスでの SWCRS と ASSR の来年の学会に参加する計画で、この学会論文集に再び採択されることを望んでいる。私は十分なデータと資料を持っており、それらを使用して降霊術の歴史に関する著書をできれば2年以内に出版したいと考えている。